

大垣真宗学院 同窓会

記念大会特集

同窓会報

第6号

発行日 2013年12月10日
事務局 岐阜県大垣市伝馬町11
大垣教務所内
電話 0584-78-3363
FAX 0584-78-3353
郵便局振替口座番号 0830-7-206305

記念大会特集号に寄せて

大垣真宗学院の今までとこれから



大垣真宗学院指導主任

鷹橋賢由

一九五九（昭和34）年十一月二十三日、同朋会館竣工式が行われ、翌年二月から本廟奉仕団が始まりました。そして、六一（昭和36）年四月十四日から二十八日まで、百万人を越す参詣人と共に、宗祖親鸞聖人七百回御遠忌が勤修されたのです。

時を同じくして、真宗同朋会運動が始まります。現在の高倉役宅の地にあった「大谷専修学院」は、御遠忌前に信国淳先生を学院長に迎えて、「新たな念仏者を生み出すための道場」としてスタートを切りました。

六二（昭和37）年五月には岡崎別院境内に「大谷専修学院」の新校舎が落成。同年六月の第七〇回宗議会において訓朝信雄宗務総長は、「御遠忌記念事業として、宗門にお約束をいたしました諸計画は、去る

五月三十一日に専修学院の新校舎の建築が完成いたしましたこれで全部完了した次第であります」と述べました。

六四（昭和39）年四月、その新校舎で行われた専修学院入学式における信国学院院长の挨拶で、建学の精神が語られます。「『新編信国淳選集』に「呼応の教育」として収録

「この学院は、他のいかなる教育でもなく、ただ宗祖親鸞の教えに基づく仏教教育が、文字通りに行われる一つの場所になる」のが建学の精神であると述べ、「先生が学生を教育してはならない」と語り、教師と学生とを結ぶ関係を「ブラザーシステムと呼ぶもの」と表現されています。

私はこの「初期信国体制」で五年間教え

を受けた後、七〇（昭和45）年七月に大垣教区駐在教導と大垣真宗学院の指導とを命ぜられました。この学院は、当時の小川謙了教務所長が同朋会運動を提唱した教団に「呼応」し、地方における人材養成の場の必要性を掲げて取り組まれた大切な学事機関なのです。

爾来、私は今日まで、「人間が仏教を借りて人間を教育しようとする」のではなく、「仏の教えそのものが直接人間を教育するという教育」の行われる場創りを念じながら、多くの学院生、スタッフと共に歩んできました。

着任当初の学院は、戦後復興の中で再建されたみすばらしい本堂の一隅の小部屋であったり、大垣幼稚園の幼児サイズの教室を間借りするなどして開講されていたものでした。その後、七二（昭和47）年四月二十三日には、現在の岡崎別院本堂が完成し、教育環境はやや整ってきましたが、一方、卒業資格を得ても、教師資格は得られない制度上の問題や、宗門外の大学生を主な対象として夏期休暇に開講されていたために、大学によって夏期休暇の時期がずればじめ、学生数は漸減していきました。

休院や廃院もささやかれる中、いわゆる

教団問題が落ち着き始め、八一（昭和56）年五月二十七日の第一二回宗議会で宗憲改正が可決成立。その同じ宗議会において、「真宗学院規程改正」が可決成立し、卒業資格に、念願の教師資格が認められることになったのです。

このことを機に、土曜昼間部、土曜夜間部を、通年・三年制にして開講することや、四年制・夏期集中を複式で開講するなど制度変更に取り組んだこともあり、応募学生数は漸増し、現在は、別院の一角を借り受け、不便で、窮屈な思いをしなから、総勢五十名ほどの学院生が在籍し、さまざま悩みや問題を抱えながらも、和やかな雰囲気の中で、学びを続けています。本山で行われる「教師修練」では、他教区の真宗学院生や宗門大生とも比較される中、「大垣真宗学院の学院生はすごい！」と高い評価をいただいています。

そして、二〇一三（平成25）年六月八日には、「学院創立六〇周年・同窓会の設立五周年記念大会」が盛大に開催されるなど、同窓生のサポートも力強いものになってきました。

『安楽集』の「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は、前を訪え、連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽くさんがためのゆえなり」の言葉を憶いながら、大垣真宗学院が、宗門の起死回生の一拠点になることを願うばかりであります。

希有な節目を慶ぶ



同窓会会長
高垣 康平

本年六月八日の「同窓会発足五周年・真宗学院創立六〇周年記念大会」に先立つ第六回同窓会総会の挨拶で、私は「希有な節目」ということを申し上げました。それは同窓会発足五周年、真宗学院創立六〇周年、卒業生総数七〇〇人（二〇一三年四月現在）のことです。数字が五、六〇、七〇〇と見事に行儀よく並びます。将来も記念大会が催されるでしょうが、今回ほどきれいに数字が並ぶことはないでしょう。このようなことから、本年の総会は希有な節目である、と申し上げたのです。

稀有なことは数字だけではありません。記念大会に寄せて、かつて真宗学院指導にあたって下さった里雄康意宗務総長様（大垣教区）から、「志を同じくした学友と更に親交を深め、近況や情報交換する場である大垣真宗学院同窓会の活動は大変素晴らしいものがあります」（祝辞より抜粋）と、高い評価を頂きました。

また、長年指導いただいている鷹橋賢由先生からも、「二期目の役員さんに引き継がれ同窓会は

着実に歩みをすすめてきました。今日までの歩みを素直に喜び、いつまでも明日に向かって、共に開法する御同行として、呼応し合える同窓会を目指したい」（同）と、激励のお言葉を頂きました。

そして、難波別院「南御堂」の取材を受け、「当日は音楽法要を勤め、学院卒業生でもある京都大学名誉教授の長谷正當氏による講演が行われた。今後は、大阪、金沢などに設置されている真宗学院が交流することによって、人材養成、学事施設の一層の充実が期待される」（二〇一三年七月一日発行、第六一三号南御堂より抜粋）と、宗門に発信されたのです。

定期総会後、真宗学院と共催による記念大会が行われました。記念講演会には学院内外の大勢の方が聴聞に詰め掛け、記念祝賀会も素晴らしいものになりました。歴代、現役の指導先生を初め、全国各地から参加の同窓会員、学院生も出席して下さり、ホテルの広い会場を埋め尽くしました。ヴェーカグループ「AJI」の記念ライブは圧巻。オーブニングの真宗宗歌が印象的で余韻が消えませんでした。永い永い一日が消えて、深く重い一日となりました。

このように記念大会が無事円成できたのも、同窓会会員皆様の御理解はもとより、大垣真宗学院、大垣教務所、大垣別院等、関係各位の御協力の賜物と厚く御礼申し上げます。今後とも同窓会活動にご指導を宜しくお願い申し上げます。

合掌

大垣真宗学院創立六十周年 学院同窓会発足五周年 記念大会



長谷正當師

同窓生が全国各地から駆けつけ、記念の節目を盛大に祝いました。

記念大会は「記念講演会」と「記念祝賀会」の二本立てで開催されました。広く仏道にふれる学びの場とし、学院の存在意義をより多くの人に知っていただきたいと、学院、教区関係者のみならず、一般公開で催されました。

記念講演会の講師は、学院卒業生（一九九一年）であり、京都大学名誉教授の長谷正當師（高岡教区光岸寺住職）に「大無量寿経の根本精神としての弥陀の本願」



大垣真宗学院の創立六十周年と学院同窓会の発足五周年を祝う記念大会は六月八日、大垣教区同朋会館で開催され、大勢の

の講座でお話しいただきました。一般聴講の方も含めて百五十人が講堂を埋め、熱心に耳を傾けていました。

記念祝賀会は会場をロワジュールホテル大垣に移し、百五名の出席をいただきました。アトラクションとして、男声ヴォーカルグループ「A J I」の記念ライブをメインに歓談と食事を楽しみました。A J Iは、今春卒業された鈴木智顕さん（岐阜教区）が昨年まで所属していたヴォーカルグループで、今回特別に、「真宗宗歌」「礼讃無量寿」「恩徳讃Ⅱ、Ⅲ」などの讃歌を熱唱していただきました。親しんでいる讃歌がひと味もふた味も異なった雰囲気アレンジされ、新鮮なイメージで聴くことができ、大いに盛り上がりました。また、進



司会の鈴木智顕さん（右）

行は東京を中心に司会者として活躍されている鈴木さんにプロデュースしていただき、和やかな歓談の輪が広がりました。



大垣真宗学院創立60周年記念祝賀会
同窓会

